【樹木の部屋】

ブドウ（ブドウ科ブドウ属　Vitis spp. ）

和名：ブドウ（葡萄）　　別名：　　英名：Grape

ブドウ目　蔓性落葉低木　　原産地：コーカサス、カスピ海沿岸

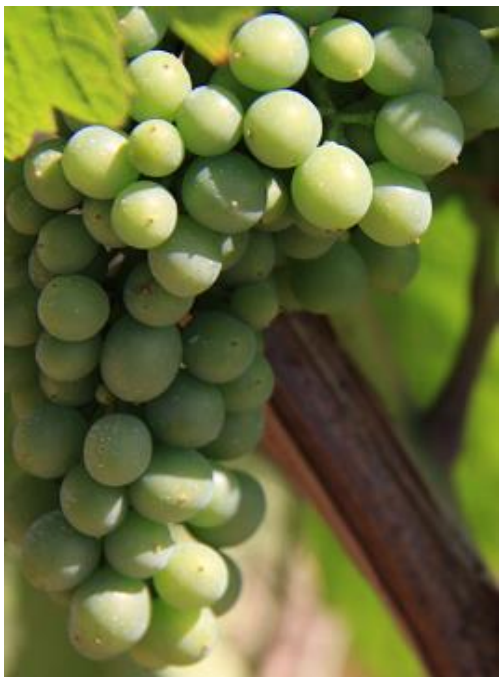
花言葉：陶酔、忘却、思いやり、慈善　　花の色：緑

← 写真-１　ブドウ(垣根仕立て)

撮影日：2015 年 07 月 13 日
撮影場所：ラヴォー地区サンフォラン（スイス)にて
撮影者：M　さん

↘ 写真-２　ブドウの果実

撮影日：2015 年 07 月 13 日
撮影場所：ラヴォー地区サンフォラン（スイス)にて
撮影者：M　さん



← 写真-３　ブドウの葉

撮影日：2015 年 07 月 13 日
撮影場所：ラヴォー地区サンフォラン（スイス)にて
撮影者：M　さん

← 写真-４　垣根仕立ての剪定樹形
撮影日：2019 年 02 月 23 日
撮影場所：アレンテージョ地方
(ポルトガル)にて
撮影者：M　さん

↘ 写真-５　クルーラ仕立て
撮影日：2018 年 04 月 25 日
撮影場所：サントリーニ島
(ギリシャ)にて
撮影者：M　さん

← 写真-６　垣根仕立てのブドウ畑
撮影日：2015 年 07 月 13 日
撮影場所：ラヴォー地区サンフォラン
(スイス)にて
撮影者：M　さん

→ 写真-７　垣根仕立てのブドウ畑
撮影日：2019 年 02 月 23 日
撮影場所：アレンテージョ地方
(ポルトガル)にて
撮影者：M　さん

← 写真-８ クルーラ仕立てのブドウ畑
撮影日：2018 年 04 月 25 日
撮影場所：サントリーニ島
(ギリシャ)にて
撮影者：Ｍ　さん

葉は両側に切れ込みのある 15～20cm ほどの大きさで、穂状の花をつけます。野生種は雌雄異株ですが、栽培ブドウは一つの花に雄蕊と雌蘂があり、自家受粉するため自家結実性があり、他の木がなくとも一本で実を付けます。食用となる部分は子房が肥大化した部分で、果実は枝に近い部分から熟していくため、房の上の部分ほど甘みが強くなります。

ブドウ属の植物は数十種あり、北米、東アジアに多く、インド、中東、南アフリカにも自生種があるそうです。日本の山野に分布する、ヤマブドウ、エビヅル、サンカクヅル(ギョウジャノミズ)もブドウ属の植物です。

現在、ワイン用や干しぶどう用または生食用に栽培されている種類は、ペルシアやカフカスが原産のヴィニフェラ種(V. vinifera)と、北アメリカ原産のラブルスカ種(V. labrusca)だそうです。

ブドウには大きく、欧州種(ヨーロッパブドウ)、米国種(アメリカブドウ)、欧米雑種の 3 種類があり、欧州種は栽培が難しく、米国種はやさしく、欧米雑種は中間といえるそうです。最適の降水量は品種によって差があり、ヨーロッパブドウは一般に乾燥を好み、アメリカブドウは湿潤にも強いそうです。

ブドウは、水はけがよく日当たりが良い土地を好みます。枝を土に挿すと容易に根を生やすため、古くから挿し木によって増やされてきたそうです。北アメリカ原産のブドウはブドウネアブラムシ(フィロキセラ)に対する耐性がありますが、1870 年頃に北アメリカの野生ブドウの苗木がヨーロッパにもたらされ、この根に寄生していたブドウネアブラムシによって、耐性のないヨーロッパの固有種の殆どが 19 世紀後半に壊滅的な打撃を受けたそうです。以後ブドウネアブラムシによる害を防止するため、ヨーロッパブドウについては、アメリカ種およびそれを起源とする雑種の台木への接ぎ木が行われているそうです。

ブドウの栽培方法ですが・・。ヨーロッパでは縦に枝を延す「垣根仕立て」あるいは「棒仕立て」と呼ばれる栽培方法が、日本では、多雨多湿の気候に適した、枝を横に延ばす「棚仕立て」が主流ですが、最近、日本でも、ワイナリーでは「棒仕立て」が多く見られるようになってきたようです。ところが、サントリーニ島には、前記とは異なりサントリーニ島ならではの工夫がされていました。非常に強い海風から、ブドウの樹を守るために考えられた「クルーラ仕立て」と呼ばれる方法です。「クルーラ仕立て」は、枝をバスケット型にらせん状巻きにし、花を螺旋の内側に誘引してブドウの樹を低く仕立てる世界で唯一の仕立て方だそうです。

同じ「垣根仕立て」ですが、レマン湖畔のラヴォー地区は急斜面を切り開いて造ら

れた段々畑のブドウ畑、アレンテージョ地方（ポルトガル）では、広大な丘陵にブドウ畑が拡がっていました。

ギリシャは、世界で最も古いワイン生産国の一つで、古代ギリシャは、ワインの歴史の上で重要な役割を果たしたそうです。特権階級の飲み物であったワインが庶民に広まったのはエーゲ海の諸島が最初で、ワインはここからギリシャ本土やイタリア半島などへ普及していったと考えられているそうです。